"第4山の手"と呼ばれる街
――緑区・田園都市線沿線――

ある日のたまプラーザ駅前

田園都市線たまプラーザ駅前、午後2時。2人の女性が喫茶店にはいった。2人とも30代半ばくらい。1人はベージュのニットにグリーン系のスカート。もう1人は、白のブルゾンに紺色の丈の長いジャンパースカート。ポシェットを前にさげ、手にはデパートの紙袋。

2人の話題は、子どもの塾のこと、スポーツクラブのこと、おいしいケーキ屋のこと、株を始めたことなどなど。

典型的な郊外住宅地である田園都市線沿線。かつて「田園調布に家が建つ」という言葉がはやったが、今や「田園都市線に家が建つ」と言わなければならないほど人びとのせんぼうの的となったこの街は、今、さまざまな意味で注目されている。

「第4山の手」のライフスタイル

その一つが「第4山の手」論である。

「『山の手』とは、次代の新しいライフスタイル、文化をきりひらく可能性と機運にみちた新興中流サラリーマン・文化人の多く住むところである。その『山の手』が明治以降、『第1山の手』の東京の本郷、『第2山の手』の四ツ谷、赤坂、『第3山の手』の目黒、世田谷区と、しだいに郊外へと移っていき、今や都心から半径40㎞圏の埼玉・多摩・神奈川にまたがる地域が『第4山の手』となりつつある」という説である。

では、その「山の手」のライフスタイルとは、いったいどのようなものなのであろうか。それをイメージ化し、田園都市線沿線への憧れをかきたてた、テレビドラマ「金曜日の妻たちへ」いわゆる「金妻」から断片的にひろってみよう。

かつての同級生との家族ぐるみのつきあい、それぞれの家で開くホームパーティ、主婦同士車で出かけるショッピングセンターでの買いもの・食事、自分の才能を生かしながら在宅でする仕事、つねにとり入れている新しいファッション、などなどである。

これらを見て分かるのは、主人公たちの生き方・考え方もさることながら、その舞台セット、つまり彼らの住んでいる家や街というものが、大きな要素をしめているということである。

「金妻」の舞台は、田園都市線つくし野駅周辺であったが、沿線には同じような家なみ・まちなみが続いている。ホームパーティをひらけるようなゆったりとした家、その家が整然とならび両側に街路樹が植わったまちなみ、車の利用を容易にする広い道路・駅前広場がある。そして、広い駐車場をもったショッピングセンターも大きな要素だ。

おそらく、これらの舞台セットが整わなければ、「第4山の手」のライフスタイルも生まれなかったし、このドラマもありえなかっただろう。

襲いかかる地価の高騰

しかし、その舞台セットを大きく揺るがそうとするものがある。地価の高騰である。

東京都心の地価高騰と沿線イメージの上昇が相乗効果を生み、地価が1年間で5倍にもなるという地域もあらわれた。今や、戸建て住宅の1億、2億などという数字にはだれも驚かなくなってしまった。

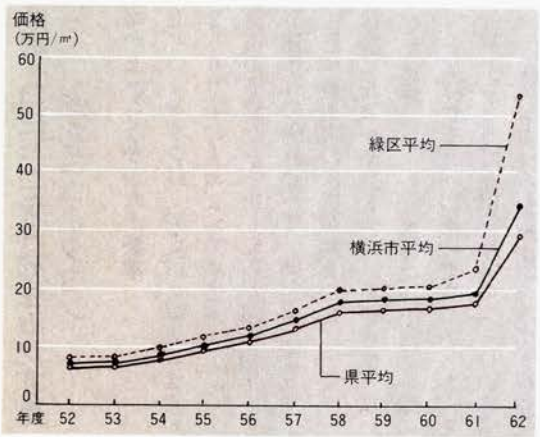
地価の高騰は古くからの住民をおい出している。相続税をはらうため、住んでいる住宅を売って遠くへ移る人、賃貸料の値上がりにたえきれなくなって移って行く商店主、さまざまである。

人気のあるミニコンサート

また、土地利用にも変化がおよんでいる。沿線には、賃貸マンション、ワンルームマンション、メゾネット住宅が急増している。分譲マンションの採算があわないことも、それに拍車をかけているのだ。そして、適当な家賃の住宅を求めて、定住性の低い単身者、あるいは若い家族がどんどんはいってくる。そして、住民層がどんどん変わっていく。さらに、人びとの流入にともなって車が増えるにもかかわらず、駐車場であったところに建物が建ち、駐車場をもたない集合住宅がどんどん建設されている。

特に、車の問題は深刻で、路上駐車の増加によって交通事故が急増し、交通渋滞も日常化している。しかし、あまりの多さに警察もお手上げの状態だという。

■地価の推移



国土庁「地価公示」

このような状況が重なりあって、今、「第4山の手」のライフスタイルを支えていた基盤は、大きくくずれようとしているのである。

「確かに、地価の高騰と車の問題は深刻だね」と、緑区で10数年ミニコミ紙の編集にたずさわってきた若尾忠政さん。「緑区のこのあたりは最初から住みよくできているから、住民同士で何とかするとか、行政に対し何か言うとかいうところがあんまりないんだね。もともと、横浜市民だという意識もうすいし……。言ってみれば、中途半端なのかな。でも、そのうちに住民運動的なものも生まれてくるんじゃないかな。うちの新聞も、もともとそのような地域情報の交流を目的として始めたんだけどね……」。

これからの田園都市線沿線

ある意味において、「第4山の手」のライフスタイルとは、〝商業ベース〟でつくられたものにすぎないという見方もできる。それは、現在のようにあらゆるものが〝商業ベース〟で動いている時代においては当然のこととも言える。

しかし、人びとがみずからの問題意識にもとづいて行動の輪を広げていくとき、また、その地域で問題が生じたときに、住民が集まり、その解決にむけて行動をおこすような場合は、単に〝商業ベース〟だけでことが運ぶことはない。従来それらは、コミュニティ活動とかまちづくり活動とかよばれていたものであるが、現在では、「人びとのライフスタイルの一つの表現」とでもよべるようなスマートさがそなわってきてもいる。

その意味において、田園都市線沿線には「第4山の手」のライフスタイルとは本質的に異なるライフスタイルが、生まれつつあるといえる。

ここを〝終の住まい〟とする人のなかから、現在の状況を解決しようとするひとつの動きが生まれ、それが流行に流されない自分たちのライフスタイルとして人々に広がっていくとき、田園都市線沿線は、また新しい文化の発信源として、人びとの注目を集めることだろう。

広い駐車場をもつショッピングセンター